

令和6年度
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
活動報告書

誰もがいつまでも安心して暮らし続けられる

支えあいのまち 羽曳野

～「ささえあいネットはびきの」の実現に向けて～



羽曳野市CSW連絡会

目 次

1. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは？	P.2
2. 「ふれあいネット雅び」を中心とした相談援助・地域づくり	P.5
3. 主な出席会議	P.6
4. CSW の活動実績（令和6年度）	P.7
5. 個別支援活動の事例	P.9
6. 地域支援活動の事例（地域福祉専門職ネットワーク活動）	P.13
7. CSW の紹介	P.16
8. 用語説明	P.17
9. つながるシート	P.18

1. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは

羽曳野市では、制度の狭間や複数の福祉課題をかかえるなど、既存の福祉サービスだけでは対応困難な事案の解決に取り組んでおり、羽曳野市地域福祉計画に基づき、地域における見守り・発見・サービスへのつなぎの役割を担うコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を市内圏域担当5名配置しています。

CSW は以下の4つの視点を持ちながら業務に取り組んでいます。

① 相談受付の包括化

それぞれの専門領域を超えてワンストップで困りごとを抱えた方の相談を受けとめます。

② 複合的な課題に対する適切なアセスメントとコーディネート

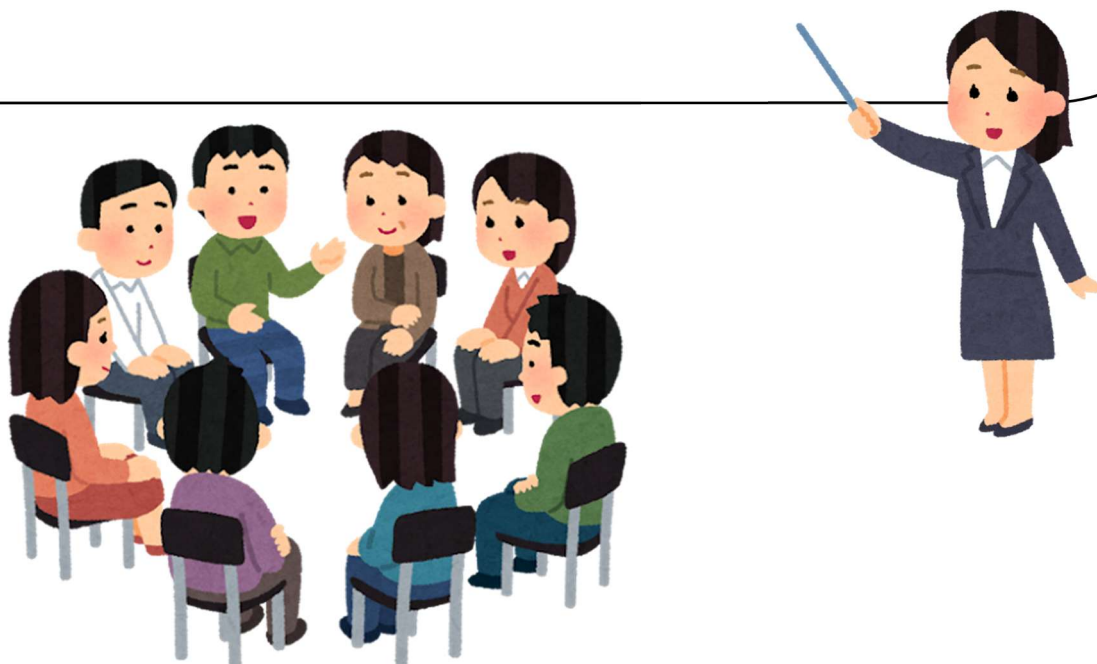
複合的な課題はまず課題の整理が必要であり、その後支援の道筋をたてていきます。その過程において複数の専門機関との連携が必要となってきた時にコーディネートすることが大切です。

③ ネットワークの強化

専門機関同士がそれぞれの役割を理解し合い、お互いが「顔の見える関係」になることが必要です。それぞれの専門領域を超えて包括的な相談支援を提供し、さらに他領域の機関と連携することにより重層的な相談支援体制を構築します。

④ 新たな社会資源の開発

個別の支援から明らかになった地域課題について、地域住民と共に新たな資源の開発を行っていきます。また、地域とのつながりを求めている専門機関と地域住民が協働できる場をコーディネートしていきます。



◆コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の役割には大きく分けて、
「個別支援活動」と「地域支援活動」の2つあります。

「個別支援活動」とは

さまざまな福祉制度やサービスが充実している中でもそれらの網の目からもれた、支援が必要な方の相談にのり、関係機関・団体や地域の方々とのつながりを持ちながら問題解決に向けて当事者に寄り添っていくこと。



「地域支援活動」とは

地域で別々に活動している各種団体や、地域で何か活動してみたいと思っている市民をつなぎ、地域全体の福祉力を高めていくこと。

そして・・・

個別支援活動から見てきた課題を、地域支援活動に活かし、また地域支援活動が個別支援活動に活かされるような循環システムをめざし取り組みを進めています。

◆コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、高齢・障害・子ども等の属性や各分野を横断的に、支援の必要な人の相談に応じ、適切な支援に結びつけます。関係機関・団体や地域の方とつながりを持ちながら問題解決に向けて、当事者に寄り添っていきます。



◆安心して過ごせる居場所づくり <West 社協>（令和 3 年度から開設）

様々な課題を抱え、生きづらさと孤立の中で日々葛藤している方々とともに、安心して過ごせる居場所として、社会とのつながりとなれるような場所を目指して取り組んでいます。



West社協




ちょっとひと息ついていただける場所です

W 大切なWe

E 大切なEverybody

S 大切なstory

T 大切なTime

◆奇数月
1.3.5.7.9.11月
第2水曜日

◆偶数月
2.4.6.8.10.12月
第2火曜日
午後1時~3時

やさしいメニューを多数ご用意しています！



問い合わせ
羽曳野市社会福祉協議会 西部事務所
 羽曳野市南恵我之荘2-3-22
 072-953-8067
 9:30~17:00 / www.hasyakyo.net
 CSW が在籍



※利用を希望される方は、上記までお問合せください。

※この事業は、羽曳野市生活困窮者自立相談支援事業および羽曳野市コミュニティソーシャルワーカー配置事業の一環として実施しています。

2. 「ふれあいネット雅び」を中心とした相談援助・地域づくり

羽曳野市の地域福祉の最大の特長は、「ふれあいネット雅び」による小学校区の相談援助体制が充実しているところにあります。

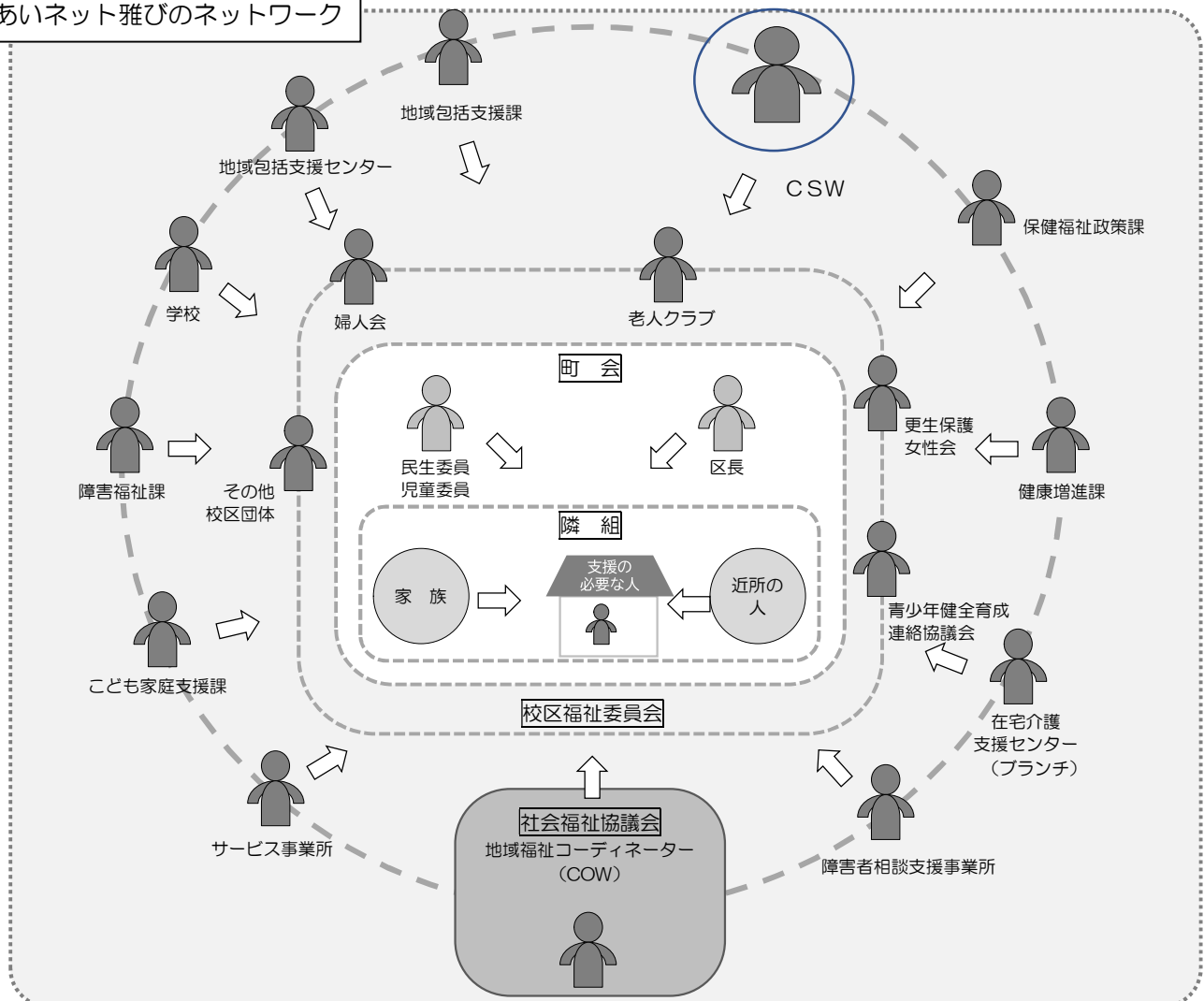
校区福祉委員を中心とした小地域ネットワーク活動（※）に、行政機関と市社会福祉協議会、そして社会福祉法人をはじめ、地域の福祉関係の事業所などが加わり、協働して支援を行う仕組みが「ふれあいネット雅び」です。

各小学校区では、民生委員児童委員や校区福祉委員、町会など、最も身近な場所で困りごとを抱えた方を発見し、専門的な支援につなぎ、地域での見守りを行っています。同時に、小地域ネットワーク活動に参画されている方々がお互いに思いを確認し合い、地域住民自らが地域福祉を推進する原動力を創りだしていきます。※小地域ネットワーク活動：校区福祉委員会が推進する見守りや手助けなどの個別援助活動とサロン活動等のグループ援助活動。

「ふれあいネット雅び」の主な役割

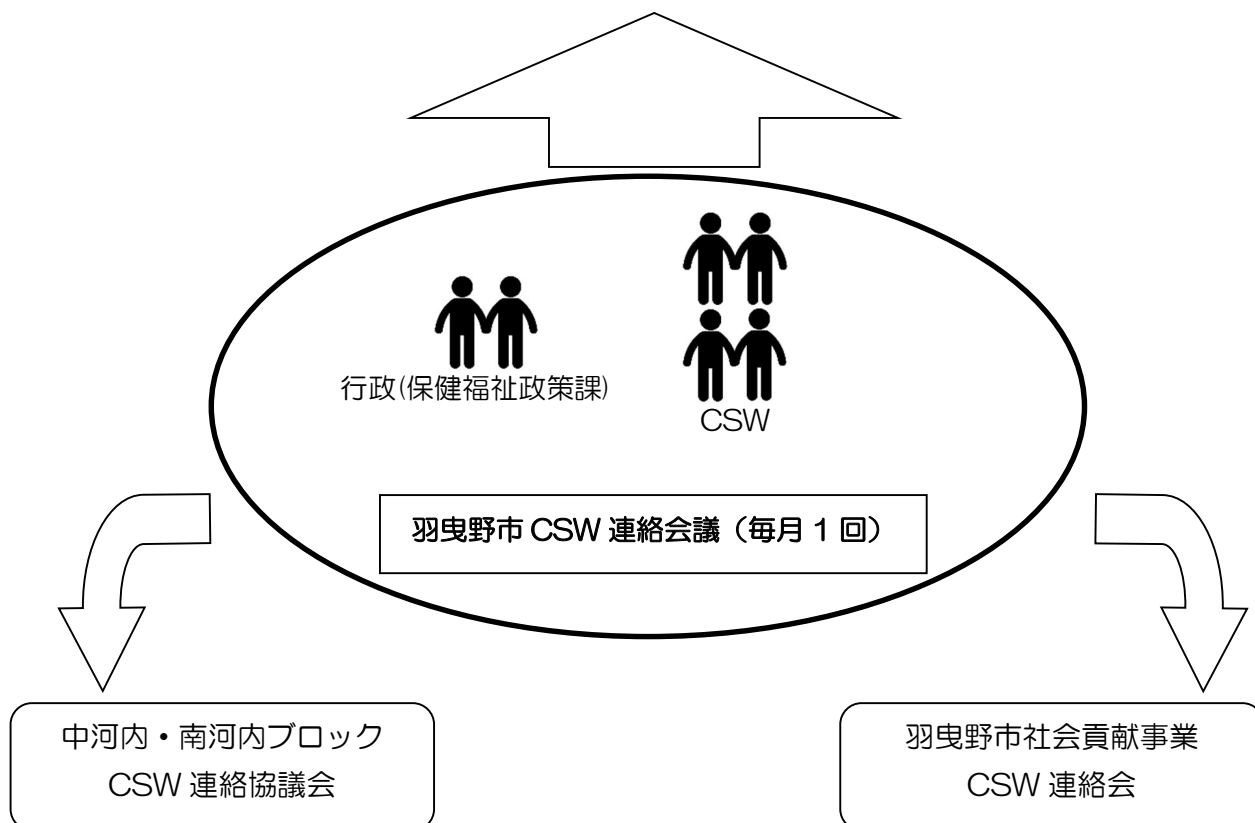
- ① 地域の見守りからの発見や困りごとを抱えた方からの相談をいったん受け止め、専門職につなぎ、早期に支援を行う機能
- ② 地域の福祉ニーズに合った社会資源を地域住民、市、専門機関が協働し開発する機能
- ③ 福祉意識の醸成など学び合いの機能
- ④ 事業推進機能

ふれあいネット雅びのネットワーク



3. 主な出席会議

行政機関（羽曳野市）	関連機関（専門職）	地域住民
		<div>校区福祉委員会会議</div> <div>校区福祉委員会連絡会</div>
各校区ふれあいネット雅び地域福祉推進チーム会議		
	ふれあいネット雅び運営会議	
	ランチ会議・エリア会議	
	羽曳野市地域自立支援推進会議	
	教育福祉連携会議	
生活困窮者自立支援地域ネットワーク会議		
羽曳野市地域福祉推進委員会・羽曳野市地域福祉活動計画推進委員会		



4. CSW の活動実績（令和 6 年度）

（1）対象者別

相談対象者	延べ件数	前年度比	件数	前年度比	相談者数 (前年度比)
高齢者	935	-42	193	+16	
（うち）一人暮らし高齢者	572	-256	139	+11	
（うち）高齢者のみの世帯	242	+121	47	+8	
障害者	1400	+917	130	+79	
（うち）身体障害者	79	+31	15	+1	
（うち）知的障害者	416	+153	36	+24	
（うち）精神障害者	909	+737	79	+53	
子育て中の親子	365	+55	20	-1	
一人親家庭の親子	206	+123	11	+7	
青少年	329	+323	5	+3	
DV 被害者	39	-129	5	-2	
ホームレス	0	0	0	0	
外国人（中国帰国者を含む）	122	-17	10	+5	
その他（生活困窮者）	361	+136	39	+18	
その他（ボランティア）	147	+81	98	+38	
その他（ひきこもり）	220	-67	31	+13	
その他（アルコール依存・ヤングケアラー・近隣トラブル等）	156	+145	42	+36	
その他（上記以外）	243	-62	57	-29	
合計	4523	+1463	641	+183	571 (+128)

※延べ件数および件数について、対象者の属性によりカウントが重複しています。

件数（対象者の属性）は、「一人暮らし高齢者」が最も多く、次いで、「ボランティア」「精神障害者」の順となっています。

延べ件数（活動・対応の数）では、前年と比較して、「精神障害者」が最も増加しています。また、「青少年」「その他（アルコール依存症・ヤングケアラー・ご近所トラブル）」も大きく増加しています。

「ボランティア」については、地域でボランティア活動をされている方から、地域の困りごとや専門機関への協力依頼などの相談を伺うことが多くなってきています。



(2) 相談内容別

相談内容	延べ件数	前年度比	件数	前年度比
福祉制度・サービスに関する相談	2123	+551	384	+19
生活に関する身近な相談	1835	+282	353	-12
健康・医療に関する相談	1419	+212	252	-33
生活費に関する相談	804	+236	111	-5
就労に関する相談	427	-6	64	-13
財産管理・権利擁護に関する相談	139	+98	28	+20
消費者被害に関する相談	5	+5	1	+1
多重債務に関する相談	37	-32	4	-4
DV・虐待に関する相談	77	-16	18	+4
地域福祉・ボランティア活動に関する相談	656	+377	200	+46
住宅に関する相談	455	+54	75	+19
子育て・子どもの教育に関する相談	359	+122	51	+24
その他（避難行動要支援者に関するもの）	135	+23	33	-4
その他（ひきこもり）	273	+64	43	+15
その他（フードバンク）	44	+38	6	+5
その他（ヤングケアラー・近隣トラブル等）	49	-30	17	+7
その他（上記以外）	126	-47	15	-25
合 計	8963	+1931	1655	+64

※延べ件数および件数については、相談内容によりカウントが重複しています。

※その他（その他）は、新たに追加した項目です。

相談内容別にみると、延べ件数（活動・対応の数）、件数（相談内容別）ともに「福祉制度・サービスに関する相談」、「生活に関する身近な相談」、「健康医療に関する相談」の順に多くなっています。

合計数をみると、件数は前年比64件の増加ですが、延べ件数は1,931件と増加が目立っています。これは解決までのプロセスや次の支援につなぐまでに時間を要するケースが多いことが要因の1つと考えられます。

5. 個別支援活動の事例（「用語説明」は、P17 に掲載しています。）

相談事例1 【複合的課題を抱えた家族の支援】

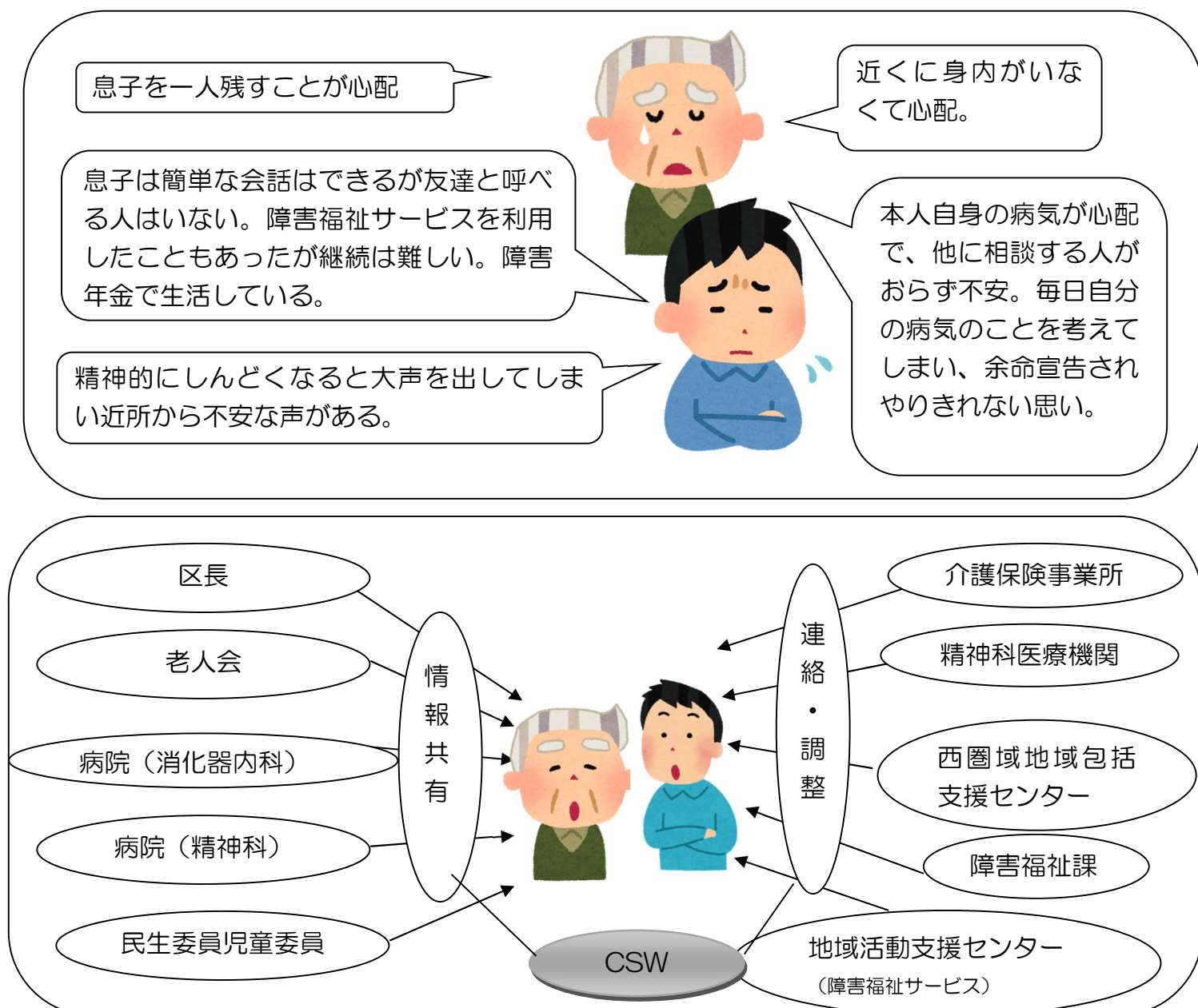
◆困りごと

- ・本人（80代）が闘病のため余命2、3年と診断され、やりきれない思いがある。
- ・40代の息子が精神疾患を抱えひとりで生活ができるか、行く末が心配。
- ・息子は時折大声で叫び声を出してしまい近隣から不安な声がある。これまで障害福祉サービスを利用してきたが途中で行かなくなり、家にひきこもり状態である。

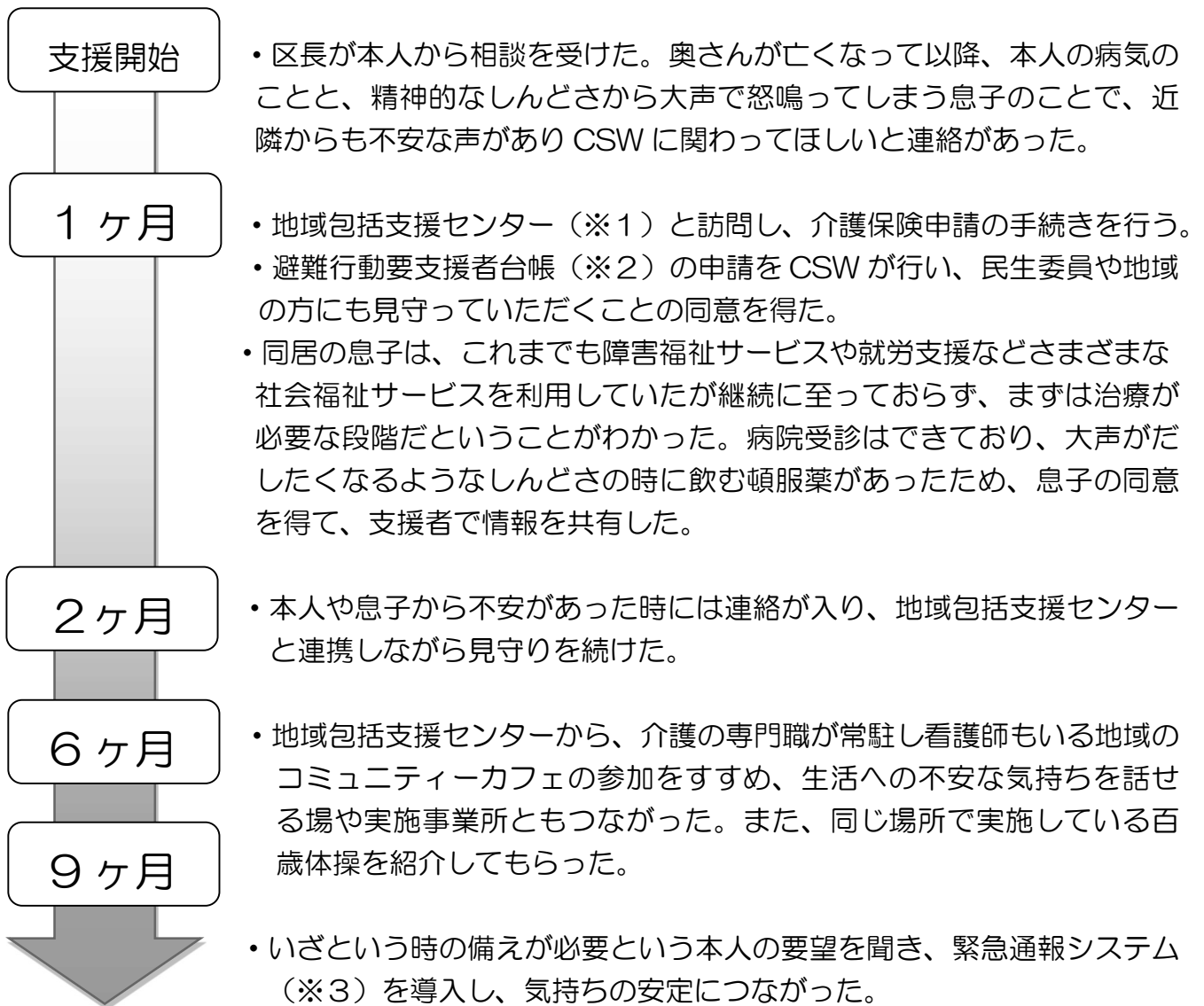
◆相談の経緯

- ・80代男性からの相談を、地域の区長が連絡を受け、CSWに相談が入る。

◆CSWが関わる前の状況



◆支援のおおまかな流れ



○現在の様子

- ・避難行動要支援者台帳への登録で地域の方々からの見守りが進んだ。
- ・本人は介護サービス利用し、居場所ができた。
- ・介護、障害等様々な分野の専門職が関わりながら、本人と息子の利用できるサービス手続きを進め、複数の事業所が支える体制づくりを行い、もしものことがあっても生活できるよう連携する仕組みができた。



相談事例 2【ギャンブルをやめたい人への支援】

◆困りごと

- ・本人（30代）が同居の母親（80代）のお金を使って賭け事をしてしまう。
- ・本人は仕事は探せるが続かない。
- ・母親は高齢で介護サービスを利用したいがお金がなく受けれない。
- ・何事もやる気が起きず、昼夜逆転の状態。

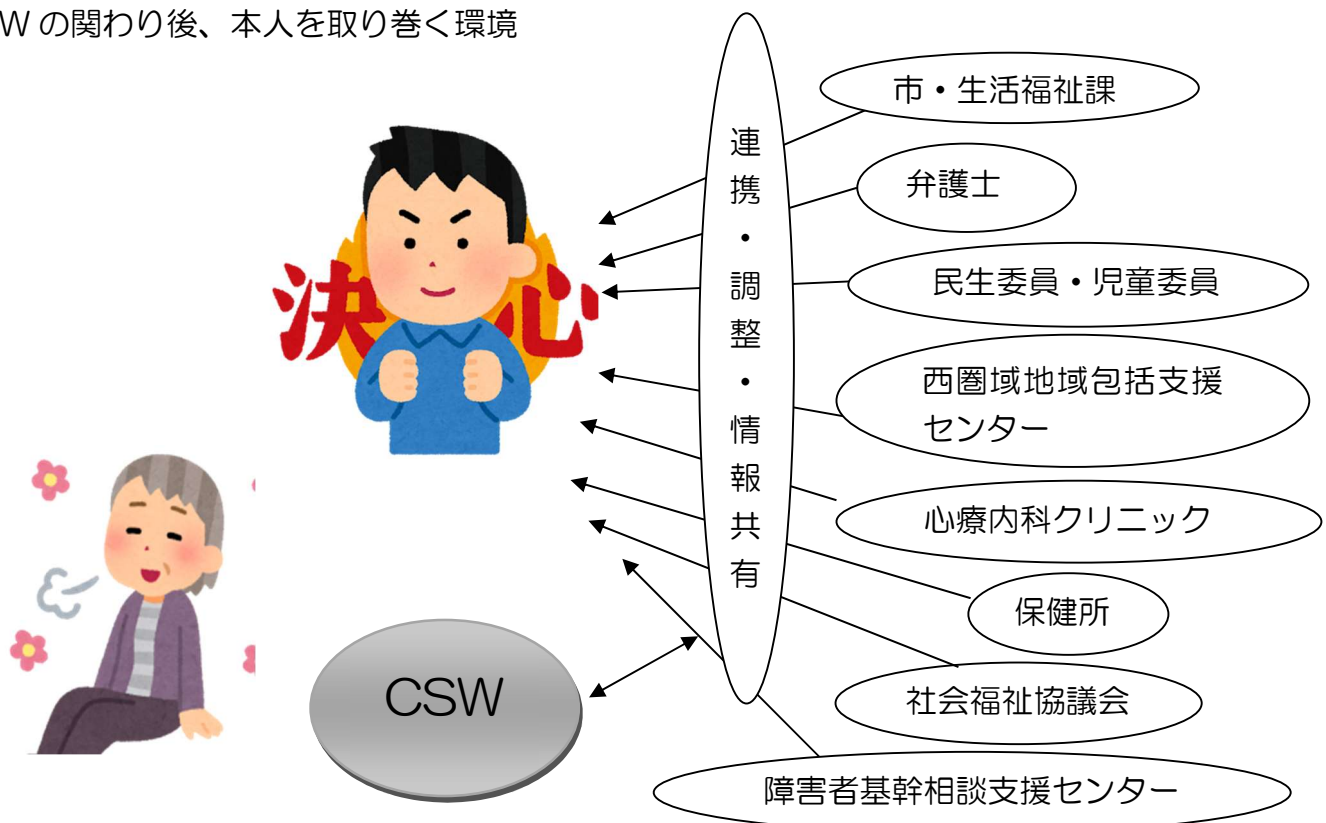
◆相談の経緯

- ・地域の民生委員から「おばあちゃんが重たそうにゴミ出しをしている。同居の家族が居るはずなのだが」と相談が入る。

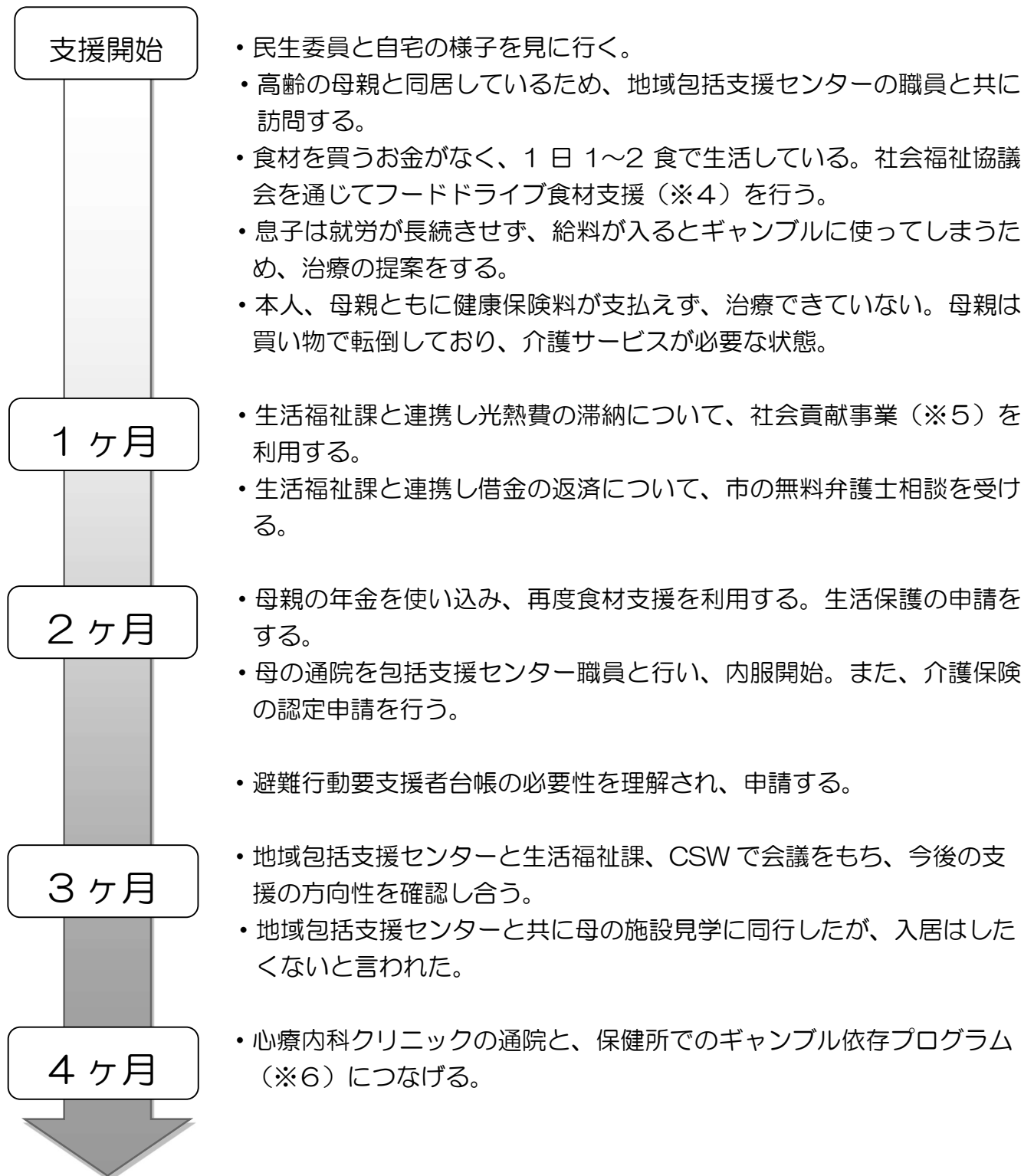
◆CSW が関わる前の状況



◆CSW の関わり後、本人を取り巻く環境



◆支援のおおまかな流れ



○現在の様子

- ① 生活保護の申請がとおり、生活費を受給できている。
- ② 親子とも通院できている。
- ③ ギャンブル依存の治療として保健所でのプログラムを受けられている。
- ④ 母が介護サービスを使えるようになった。

6. 地域支援活動の事例（地域福祉専門職ネットワーク活動）

◆専門領域を超えた包括的な相談支援体制の構築に向けて

羽曳野市では全ての市民が世代や背景を問わず安心して住み慣れた場所で生活し続けられるように、住民と行政、専門機関が協働し、制度と制度の狭間に落ち込む人を生み出さない重層的なネットワーク「ささえあいネットはびきの」の構築を推進しています。

住民にとって最も身近な地域として小学校区を基本とした第1層には「ふれあいネット雅び」によるネットワークを構築しています。住民組織と福祉職、行政職が、その小学校区に住む方々の課題解決を目指して話し合う場です。

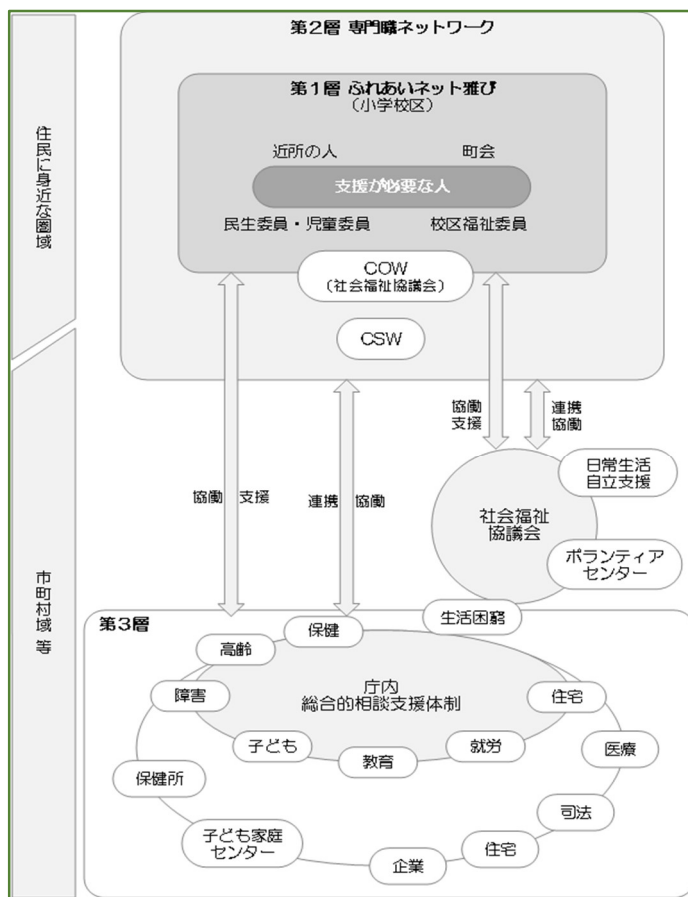
第3層は羽曳野市全体を指し、新たな福祉サービスの開発や施策の検討など政策エリアとして機能しています。

そして、第1層と第3層の中間に位置する第2層では、CSWが中心となって様々な組織や機関、施設が協働できるネットワークの構築を目指しています。

それぞれ専門領域や得意分野がある一方で、活動の中では領域外の課題を発見することがあります。近年では福祉課題が複雑・多様化する中で、一つの専門領域で対応することが困難な事例も多数報告されています。

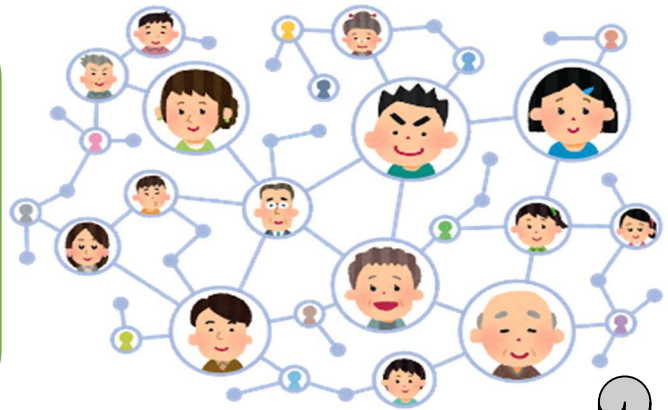
そのような事例に出合ったときに、一人で悩んだり、諦めるのではなく、その領域を専門とする誰かに繋げることができるよう「羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク」の構築を進めています。一つの世帯でお困りになっている方が一人とは限りません。専門職同士がつながることで「個人単位」ではなく「世帯単位」、さらには「地域単位」の支援ができればと考えています。

この取組みは全く新しいネットワークを作るというものではなく、これまで地域の専門職のみなさんが構築されてきた既存の多種多様なネットワークを、地域福祉専門職ネットワークで出会った専門職が活用（シェア）することで、それぞれのネットワークがさらに活性化され、重層的なセーフティネットが羽曳野市に張り巡らされることを目指しています。今後も地域の専門職・住民のみなさまと一緒に、羽曳野市民が安心して暮らし続けられる地域を作って行きたいと思います。



ささえあいネットはびきの イメージ図

「多職種・多領域の専門職が集まって、相談や助言を安心して出し合えるプラットフォームをめざします。」
☆専門職のネットワークを超える！
☆誰かの一言が解決の糸口へ！
☆みんなが困っていることをまとめて、行政に届けられる場へ！



■第1回 羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク交流会

日時：令和6年9月12日（木）14：00～16：00

会場：羽曳野市立陵南の森公民館 2階研修室

対象：市内の施設や相談支援機関、事業所に所属する職員、行政職員

内容：“複合多問題の事例”についてのグループワーク等
名刺交換も含めた交流



「相談したいケース」について

専門職どうして相談できる場を、羽曳野市コミュニティソーシャルワーカーを中心に作っています。

専門職で集まって話したいケースがありましたら、お近くのコミュニティソーシャルワーカーまでご連絡ください。

専門職への投げかけ・日程調整を行った上で、話し合う場を設けます。

「相談したいケース」は常時受け付けていますので、
お気軽にご相談ください。【随時開催します！】

■第2回 羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク交流会

日時：令和7年2月19日（火）14：00～16：00

会場：陵南の森公民館 2階研修室

対象：市内の施設や相談支援機関、事業所に所属する職員で、多職種連携に関心がある方

内容：講演 一般社団法人ボランティアセンター支援機構 おおさか代表理事

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎国広氏

“ふれあいネット雅び”と重層的支援体制整備事業～誰ひとり取り残さない社会を創るために～



新崎 国広氏

福祉の現場で実績を積みながら研究員となり、常に現場からの視点で追究するスタイル。授業は、発達人間学、地域福祉、福祉教育、児童福祉、社会福祉など幅広く担当されている。2003年大阪教育大学準教授、2007年4月より教授。2020年4月より特任教授。2023年4月より「ふくしと教育の実践研究所 SOLA (Social Labo)」主宰。

現在は、地域福祉推進にむけて、大阪教育大学・関西大学・桃山学院大学等非常勤講師、内閣府「子供・若者支援地域ネットワーク強化推進事業」及び「子ども・若者総合相談センター強化推進事業」アドバイザーとしても活躍されている。

「福祉施設と地域」「学校と地域」といった“結節領域”を“なぎさ”と比喩的に表現し、“なぎさ”をキーワードに学校と家庭、地域社会を巻き込んだ共育・福祉コミュニティづくりを実践研究の目標とされている。



7. 羽曳野市CSW 自己紹介（令和7年度からはこのメンバーで対応させていただきます！）

中エリア

【埴生】校区

大賀 典子（おおが のりこ）

羽曳野市社会福祉協議会

☎ 958-2315



（好きなこと）

ライブ巡り

バイキング巡り

西エリア

【高鷺北・高鷺南・丹比】校区

中野 桃子（なかの ももこ）

はぁとふるグループ

☎ 953-1003



（好きなこと）

ドライブ・旅行・カラオケ

西エリア

【恵我之荘・高鷺】校区

塩野 宗明（しおの むねあき）

羽曳野市社会福祉協議会西部事務所

☎ 953-8067



（好きなこと）

読書・ツーリング（ナナハン❤️）

中エリア

【埴生南・羽曳が丘】校区

中 浩史（なか ひろし）

四天王寺悲田院

☎ 957-3731



（好きなこと）

楽しいお酒・知らない町を歩くこと

東エリア

【古市・西浦・白鳥】校区

穴戸 俊一（ししど しゅんいち）

羽曳野市社会福祉協議会

☎ 958-2315



（好きなこと）

ライブ巡り・イベント幹事 LOVE

東エリア

【駒ヶ谷・西浦東・古市南】校区

増田 健司（ますだ けんじ）

和悦会

☎ 958-9951



（好きなこと）

プロ野球観戦・猫と遊ぶこと



【小学校区での地域割】

8. 用語説明

(※1) 地域包括支援センター

高齢者の総合的な支援を実施している。ご家族・ご本人の介護や健康に関すること、困りごとなど、専門職員（保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援専門員）が対応している。また、健康や福祉、医療や生活に関するさまざまな相談や高齢者虐待、成年後見制度利用支援、消費者相談（詐欺）等対応している。

(※2) 避難行動要支援者台帳

自ら避難することが困難な方（避難行動要支援者）のうち、地域の校区福祉委員会や町会・自治会、民生委員・児童委員等の支援をしてくれる方（避難支援等関係者）に、自分の個人情報を提供することについて同意をいただいた方をリストにしたものです。

台帳に登録された名前や住所等の情報は、日頃の声かけや見守り、いざというときの避難のために活用していただいている。

(※3) 緊急通報システム

日常生活に不安のある高齢者の方に緊急通報装置のレンタルを実施している。緊急時に装置本体の「緊急（非常）ボタン」又はペンダント型の発信機のボタンを押せば相談センターに連絡が届き、24 時間、看護師や保健師が対応している。

(※4) フードドライブ

フードドライブは家庭や企業で余った食品を集めて、フードロスを減らすとともに、食糧を必要とする人々に届ける活動で、羽曳野市では社会福祉協議会等が対応している。

(※5) 社会貢献事業

今日・明日食べるものがない、電気・ガスが止まってしまった…。失業、介護、障がい、虐待やDV など、様々な”生活 SOS” に対応する総合生活相談事業です。各種制度やサービスにつないで生活の安定をはかるとともに、緊急を要する場合は、食材の提供など経済的援助（現物給付）も行われている。

(※6) ギャンブル依存プログラム

ギャンブル等の問題をかかえる方を対象に、ワークブックを用いてギャンブル等の問題への具体的な対処法を学び、ギャンブル等に頼らない生活を取り戻すことをめざしたプログラムを保健所が実施している。

【つながるシート】

羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク

～事例検討会を随時開催します！～

“誰か”・“何か” とつながりたい相談事がある方からの相談をお待ちしています。



「“誰か”・“何か” とつながりたいけれど、つながりきれていない相談事がある方」から、専門職どうして話し合いができる場を羽曳野市コミュニティソーシャルワーカーを中心に作っています。専門職で集まって一緒に考えたいケースがありましたら、お近くのコミュニティソーシャルワーカーまでご連絡ください。専門職への投げかけ・日程調整を行った上で、話し合う場を設けます。

「相談事」の一例・・・連携に苦慮した・社会資源が無くて困った・担当者が抱え込んだ・分野外の相談でどう対応すればいいか分からなかった・職場内に相談できる人がいない等

今までの事例検討会での検討事例（事例タイトル（事例提供事業所））

- ①住宅ローンを支払えなくなり、引っ越しを迫られている家族とひきこもっている娘への支援。（西エリア CSW）
- ②夫婦で暮らしている老々介護での支援、娘にも協力をしてもらうにはどうすればよいか。（小規模多機能事業所）
- ③DV 夫から離れて子どもたちと笑いながら暮らしたい。（相談支援事業所）

ZOOM 事例検討会と地域福祉専門職ネットワーク交流会での事例検討の様子

参加専門職 相談支援専門員（障害分野）、ケアマネジャー（高齢分野）、看護師（医療分野）
里親支援専門相談員（児童分野）、医療ソーシャルワーカー（医療分野）、生活相談員（高齢分野）、行政（保健・福祉部門）など。

内容 様々な分野の専門職が集まり、それぞれの強みを活かした意見を出し合い、事例の課題解決に向けた話し合いをしています。事例を挙げて下さった方に、支援に役立つ情報を持って帰ってもらえることを目指しています。

対面もしくはオンライン（ZOOM 使用）で実施します。



【つながるシート】

事例を相談する際に、使用してください。

必ずしも、このシートを使用しなければいけないわけではありません。

【記載日】

令和 年 月 日

【提出者】(事業所名)【 】

(職 種)【 】

(氏 名)【 】

＜ケースの中で検討したいこと＞

年齢		性別		疾病名(障害名)	
関係機関					
家族関係(ジェノグラム)※手書き可				エコマップ	
主訴 ※本人(家族)のニーズを具体的に記載してください。					
経過と現状					
メモ					

『羽曳野市コミュニティソーシャルワーカー活動報告書』

発行月： 2025（令和7）年 11 月

発 行： 羽曳野市

編 集： 羽曳野市CSW連絡会

【事務局】

羽曳野市 保健福祉政策課 地域福祉担当

☎072-958-1111（1127）

インターネットで検索するには・・・

羽曳野市 CSW について

